

グラミー賞受賞NYジャズ界のレジェンド、デビッド・マシューズ率いる
マンハッタン・ジャズ・クインテットが島田にやってくる!



Manhattan Jazz Quintet



David Matthews / p



Chris Hunter / a.sax



Michael Rodriguez / tp



Hans Glawischnig / b



Cliff Almond / ds

マンハッタン・ジャズ・クインテット

～スイングしなけりゃ意味ないね～

平成29年9月10日(日) 開場/17:00 開演/17:30

会場 / 島田市民総合施設 プラザおおるりホール

入場料：全席指定(税込) 一般 4,500 円、高校生以下 1,500 円、※未就学児入場可(膝上鑑賞無料)

発売日：平成29年7月22日(土)

入場券発売所

【島田市】

プラザおおるり / 0547-36-7222

夢づくり会館 / 0547-46-0075

川根文化センター / 0547-53-3511

サウンドイシカワ / 0547-36-3000

大鉄観光サービス / 0547-46-3131

【藤枝市】

すみやグッディ藤枝店 / 054-643-9511

主催：島田市教育委員会 主管：(株)まちづくり島田 企画・制作：(株)ミュージックポケット

お問い合わせ プラザおおるり TEL 0547-36-7222

1984年、リーダー、デビッド・マッシューズを核に、ルー・ソロフ (tp)、ジョージ・ヤング (sax)、チャーネット・モフェット (b)、スティーヴ・ガッド (ds) というNYの超一流ミュージシャンで構成されたこの MJQ は、その後、日本のジャズ入門者にとってはバイブル的存在となった。当時フュージョン・ジャズが一世を風靡しつつあった中、そこに伝統的なフォーマットを用いたバップ & ファンキー・ジャズを紹介、一躍ジャズ・ファンの心を虜にした。そして演奏する曲がすべてスタンダードだったことが、上記の「ジャズ入門者にとってのバイブル」となったのである。ジャズを徹底的に、そして見事なまでにシンプルに表現した MJQ の演奏は、ジャズのスリルと楽しさを十分に堪能させてくれた。ジャズ界では奇跡に近いアルバム・セールスも記録した（第1作は10万枚、第2作は20万枚）。マッシューズ本人は、得意の日本語を操り NHK の「英語でしゃべらナイト」の準レギュラーとしても活躍するに至った。2009年 MJQ は結成25周年を記念し、ファンへの感謝の意味も込めて日本全国14か所のツアーを敢行。それまで演奏してこなかったライブハウスへの出演も含め、東京 JAZZ をはじめとするジャズ・フェスティバル、そしてホール・コンサートと、精力的にかつパワフルに各地でライブを披露。NHK 総合 TV のお昼の番組「金曜バラエティ」を全編 MJQ 独占で収録するなど、その実力とともに人気の高さも示してくれた。それまでもメンバー・チェンジを繰り返しながら常に鮮度を保ってきた MJQ だが、2011年には新生 MJQ としてマッシューズ以外のメンバー全員のチェンジを図り、2013年には tp を若手 No.1 と名高いロドリゲスを参加させ、そして今年最後のメンバー・チェンジを試み、今なおワン・アンド・オンリーのジャズ・グループとして存在している。MJQ 生みの親、育ての親でもあるプロデューサーの川島重行氏いわく「最後にして最強の MJQ です」と。

デビッド・マッシューズ (David Matthews / p)



ルイ・ビル・アカデミーでフレンチホルンと作曲を学ぶ。さらにシンシナティ音楽院とイーストマン音楽院で修学後、70年から73年ジェームス・ブラウン・バンドのアレンジャーとして活躍。1975年にはそのアレンジの才能が開花する。ポール・サイモンの『スティル・クレイジー・アフター・オール・ジーズ・イヤーズ』でグラミー編曲賞を受賞。アルバムそのものはグラミー最高峰であるアルバム・オヴ・ザ・イヤーズを獲得。75年ミュージズに初リーダー作を録音し、76年以降は CTI/Kudu で作編曲者として活躍。ジョージ・ベンソンの『グッド・キング・バッド』、『サイモン & ガーファンクル・アット・セントラルパーク』、ビリー・ジョエルの『イノセントマン』等でも編曲を担当、プラチナ・ディスクを数多く獲得している。さらにはフランク・シナトラ、ポール・マッカートニー、ジュリアン・レノン等のアレンジも頻繁に担当し、アメリカ音楽界での地位を確立する。84年結成の

MJQ の大ヒットを経て、89年に“マンハッタン・ジャズ・オーケストラ (MJO)”も結成。今年、日本では松田聖子のジャズ・アルバムの編曲を手掛け、それこそ時の人でもある。島田市に於いては、平成26年度、27年度の2度に渡り学生の為のプラスバンドワークショップを開催し大きな話題となる。



マイケル・ロドリゲス (Michael Rodriguez / tp)

NY生まれのマイアミ育ち。ジャズ・ドラマーの父親の影響で子供の時からジャズに親しみ、父親がD.ガレスピーと一緒に演奏するのを見て、自分もトランペット・プレイヤーを目指すことになる。2004年チャーリー・ヘイデンのグラミー賞受賞アルバム『Land of the Sun』に参加し、その名をとどろかせる。以後はそのヘイデン率いるリベレーション・ジャズ・オーケストラやウィントン・マルサリス率いるリンカーン・センター・ジャズ・オーケストラに、さらにはマッシューズ率いる MJQ のメンバーとしても活躍。マッシューズは「彼のアドリブには常に歌がある」と絶賛。



クリス・ハンター (Chris Hunter / a.sax)

ロンドン生まれのクリスは、英国においてすでに確固たるスタジオ・ミュージシャンの地位を確保していたが、26歳の時、あのギル・エバンスに誘われ、NYへ居を移すことになる。当然ギル率いるギル・エバンス・オーケストラの一員として活躍するも、その実力はNY中に知れ渡り、ミシェル・カミロ、マイケル・フランクス、マンハッタン・トランスファーらに重宝され、レコーディングからライブ・ツアーまで大忙し。マッシューズ率いる MJQ での活躍も日本のジャズ・ファンにはお馴染みだ。



ハンス・グラヴィシュニク (Hans Glawischnig / b)

1970年オーストリア、グラーツの生まれ。音楽一家に育ち、6歳でバイオリン、13歳でベースを始める。高校卒業後、ボストンのパークリー音楽院に入学し、卒業後さらにNYのマンハッタン音楽学校で勉強を続け、卒業後はボビー・ワトソン、メイナード・ファーガソン、レイ・バレットらのバンドに参加。以後も順調に世界的なアーティスト、バーク・デリベラ、ビリー・ハート、リッチー・パイラーク、フィル・ウッズらのグループを経て、2006年、チック・コリアのバンドに抜擢され、欧州ツアーに参加する。2008年にはそのチックやマーカス・ギルモアらの参加を得て自身のソロ・アルバムを発表。今やNYのファースト・コール・ベーシストとして活躍中だ。



クリフ・アーモンド (Cliff Almond / ds)

カリフォルニア州サンディエゴ育ち、5歳でピアノとバイオリンを始めるが、すぐにドラムに興味を持つ。20歳の時、チック・コリアのドラマー、デイヴ・ウェックルにデモ・テープを送ったところ、その才能を認められ、ミシェル・カミロに紹介され、以来、カミロのトリオ、ビッグバンドの要となり、世界にその名を轟かせることになる。今では矢野晶子、マンハッタン・トランスファーのレギュラーとして、さらにはドラマ、映画音楽の録音にも引っ張りだこで、まさにオールラウンド・ドラマーとして世界でも超多忙な1人にあげられる。